宿品 TOPICS

◆品川宿視察まち歩き関連◆

2022年に入りコロナの状況が落ち着きだしたこともあり、品川宿の視察等が増加してまいりましたので、2つほどご紹介。

まず1/13（木）に（公財）東京観光財団主催の「都内4つの観光案内所を巡るバスツアー」が行われ、都内各所の観光関係者が品川宿の観光案内所として、品川宿交流館や品川宿を訪れました。一行はバス2台に分かれ、時間をずらして来訪。品川宿の取り組み、品川宿散策、ゲストハウス品川の取り組み等を視察。他に渋谷区・中央区・墨田区の最先端を行く観光案内所に交じっての品川宿交流館来訪。他所と真逆をいくようなアナログにこだわり、駄菓子屋をはじめ、人との繋がりで成り立つ観光案内所形態に衝撃を受けられていたようでした。

また、3/23（水）には東京商工会議所の各支部の役員の皆様を中心に、品川宿及び水辺の視察が行われました。当日は品川宿交流館にて堀江会長による、当協議会の成り立ちとこれまでの活動、今後の活動についての講演が行われ、その後路地を経由しながら、品川宿散策を案内して、品川浦の船宿 平井桟橋にてお見送り。一行は桜が咲き始めた目黒川クルーズを楽しみ、天王洲アイルTロータス桟橋にて下船して、天王洲視察という品川の魅力がぎゅっと詰まったコースを楽しまれました。（しながわ観光協会 大越 章光）



◆コロナ禍3年目の取り組み◆



2022年の新たな取り組みとしてはまず、ウクライナ難民を含む要支援外国人の無料受け入れを行いました。多くの寄付や物品支援を頂き、まちと共に受け入れ体制を整えることができたおかげで、彼らが心から安らげる場所を提供することができました。この場を借りて、心より感謝申し上げます。

つぎに、宿場プラスという旅行会社を立ち上げました。現状は海洋大学留学生の隔離期間をサポートさせて頂く業務が主ではありますが、将来的には今まで価値づけできていなかった、地域のコンテンツに価値を付けてまちに還元すべく、活動を広げていきたいと思っております。

最後に、13年前に宿を始めさせて頂いてからの取り組みやノウハウを一冊にまとめた書籍『ゲストハウスがまちを変える』を、4月に出版させて頂きました。これからまちづくりや宿づくりに関わる人々に、今日までご支援頂いた地域の皆様のお話や取り組みを伝えられることに嬉しさを感じるとともに、これからもまちの活動に全力で邁進してまいりたいと、身が引き締まる思いでございます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

（(株)宿場JAPAN 渡邊）

◆寺子屋らぼプロジェクト◆

「学生×お寺×まち（品川宿）」どんな化学反応が起きるかな?

今春、清泉女子大学（品川区東五反田）卒業後、ゼミ研究生として在学している一人の学生が、今年一年、品川宿まちづくりに関わってみたい!と手をあげてくれました。

そこで、老朽化した庫裡をリノベした、本照寺(北品川2丁目)さんの「寺子屋みろく」(フリースペース)の運用企画の一環として、5月より大学生がホストとなるコミュニティカフェをただ今試験走行中。まちづくりに関心ある大学生たちのフィールドワーク先、情報拠点になればいいな、と夢を描きつつ、毎週火曜10〜17時オープン(時々お休み)していますので、休憩がてら覗きにいらしてください。（わだふじこ）



◆川崎宿400年祭に向けて◆

2023年に川崎宿は開宿400年になります。ほとんどの宿場が1601年に幕府から御朱印頂いているのに、川崎は22年も遅かったのですね。

2001年東海道全体で行われた400年祭は大いに盛り上がり、品川宿ではグランドフィナーレが行われたことを記憶している方も多いでしょう。当時の私はその事を知らず、のちに関係者から様子を聞く度に、その場にいられなかったことが残念でなりませんでした。そんな私が自分の住む川崎宿が400年を迎えると聞き、そのお祭りには何としても深く関わりたいと、実行委員会に潜り込むことに成功しました!

2023年の『東海道シンポジウム』も川崎宿で行われる予定です。町おこしの“三角おむすび”を軸に、色々イベントの準備が始まっています!お隣の宿場です。ぜひ足を運んでくださいね!

（歩ける東海道をつなぐ会 あらたに葉子）



◆「お台場少年」出版に向けてのお願い◆

この作品の舞台は、高度成長期直前の昭和35年頃の北品川宿と台場小学校とその周辺です。主人公は小学校の3年生で、台場小学校創立とともに入学した1期生。住んでいたのは現在、品川宿交流館の場所にあった「時計メガネ、貴金属の玉晶堂」。

作者・田森庸介さんは1951年(昭和26年)に品川宿で生まれ、多感な少年時代をここで過ごしています。小学校入学後2〜3年の北品川宿とその周辺、台場小学校での実体験をもと、子供の目を通した見聞と体験の数々を、全体で10章に分けて物語っています。目黒川の旧河道、天王洲沖の埋め立て、山手通り工事など、品川宿周辺が大きく変えられようとした時代の生き証人ともなっています。

品川宿周辺に限定されており、メジャー出版にはなりづらいため、地域の皆様のご協力が必要です。台場小の同窓会、地元町会、まちづくり協議会などの協力を得て出版実行委員会もつくられます。この「お台場少年」によって、品川宿周辺の歴史の一齣が残され、これからの子供たちにも読める本として世に出ることを願わずにはいられません。

(問)街道文庫（街道歩き相談承り処）田中義巳090-3096-7831



◆世界に誇れる新たな都市観光地域づくり◆

当協会は水辺空間の利活用を核とした地域活性化、地域社会とアートシティーの架け橋となる地域観光づくりに取り組んでいます。天王洲の2019年品川区景観計画における重点地区指定、2020年東京都プロジェクションマッピング活用地区指定を経て、長引くコロナ過の中においても、社会環境の変化と要望に対応したリアルとオンラインのイベント実施を積み重ね、2021年夏、東京2020NIPPONフェスティバル共催プログラムとしてキャナルアートモーメント品川2021を開催しました。「アートと水辺の街　天王洲」の魅力づくりは、モノ消費だけでなくコト消費・トキ消費の場の継続的な創造を通じて、天王洲の観光資産である水辺空間の賑わいを創出し、オープンイノベーションによる文化観光コンテンツの高付加価値化、ユニバーサルツーリズムと観光DX、域内連携、さらには他地域との協力連携をより推進させることが重要だと考えています。

今後も品川区を核とした多様な関係者と連携しながら、水辺とアートとホスピタリティによる文化観光地域づくりを促進し、天王洲におけるDMO設立に向けて、豊かな都市観光地域づくりに取り組みます。(一般社団法人天王洲･キャナルサイド活性化協会　和田本　聡)



東海道品川宿
発行：旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会

宿品 会報みこしだこ

2022年 春版
2022年6月1日発行 第58号

ご挨拶

旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会　会長　堀江 新三

新年度を迎え、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

また、日頃より旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会の活動に対し、ご理解・ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

コロナ禍の制限が続く状況ではございますが、様々なまちの動きや変化がございましたので、ご挨拶と共にこの場をお借りして、いくつかを近況報告をさせていただきます。



まず、3月16日（水）に品川橋袂にある旧交番跡の改修工事が完了し、品川区・地元櫻心町会会長・品川宿場通り南会 会長・品川青年会 代表・品川警察署長らにご出席いただき、＜南品川櫻河岸 まちなか観光案内所＞のオープンセレモニー（写真）が行われました。長年、まちの方々が守られてきた品川宿の象徴的な旧交番跡を、品川区が取得して下さったことにより、建物が当時のままの姿で保存することができ、心から嬉しく思っています。4月より月・木・土の 10:00 〜 17:00 で開館をしておりますので、是非お立ち寄りください。

続いて3月22日（火）には、東海道神奈川宿より13宿・16本目の街道松が、南品川一郵便局前に寄贈されました。今後、多くの住民や旅人の往来を、末永く見守ってくれることになります。植樹に際し、神奈川宿や東海道結の会、そして場所の提供、およびお世話をしてくださる南品川一郵便局の皆様に心より感謝申し上げます。

また翌日の23日（水）には東京商工会議所 品川宿視察ツアーが行われ、各地区の関係者の皆様が品川宿交流館にて、まちづくり協議会の活動の話を聞いた上、品川宿を散策し品川浦から出船して目黒川の桜クルーズ、天王洲のTロータス桟橋にて下船して天王洲アイルを視察されました。

このようなまち歩きや視察等がここ最近増加してまいりました。

4月9日（土）には東品川海上公園船着き場が完成、9（土）・10（日）には東品川海上公園において、しながわ運河まつりがコロナ対策を行った上で開催され、イベントを待ちわびた大勢の来場者の笑顔で大変賑わいました。

この様にコロナ禍ではありながら、品川宿や周辺を訪れる方々や住民に、楽しんでもらうハードやソフト面でのまちのポテンシャルがさらに上がってきています。

今後もアフターコロナを見据え、このような状況下でも品川宿の観光やまちづくりに邁進していく所存でおりますので、引き続き宜しくお願い申し上げます。

協議会の33年間の活動をまとめました。

4年ほど前のこと（うなぎのねどこの田邊さんの紹介だったと思う)、ある財団の方が4名でおみえになり、品川宿のまちづくりについて説明をしたことがあった。かなり突っ込んだ質問もあって、ずいぶん熱心な方達だなと思っていたら、その公益財団法人アーバンハウジングから、一昨年「まちづくり協議会の活動をまとめませんか」と声をかけていただいた。

私たちまちづくり協議会の活動は極めて稀有な事例で、いつか誰かがまとめておくべきだろうとずっと思っていたので、この申し出をありがたく受けることにした。本来であれば、堀江会長に書いてもらうのがベストなのだが、皆さんもご存知の通り、会長はすでに若い頃に筆を絶っているので、やむなく佐山がこれを担当することになった。

そして1年間かけて協議会の活動を洗い出し、さらに1年かけてその活動を考察した。それが、品川宿33年間の活動報告「みんなで楽しんでこそ、まちづくり」で、6月末に印刷が上がってくる。

実は、原稿の締め切りを1ヶ月待ってもらった。書けば書くほど書きたいことが次々に湧いてきて止まらなくなってしまったのだ。結果、A4版で300ページを超えてしまった（この内、月別、事業／プロジェクト別の活動記録が80ページ程度)。

総会資料と会報みこしだこから毎年の全活動を明らかにし、年ごとの活動をまとめ、そこから33年間の活動を7期に分けて、それぞれの期ごとの活動をまとめた。そしてこの全活動の記録という事実をもとに、まちづくり協議会の活動の成果について考察している。つまり事実を調べた前段と、それをもとに考察した後段とあるわけだが、この後段は佐山の独断になっている。まちづくり協議会に関わっておられる皆さんの中には「それは違うだろう」と言いたい箇所もきっとあると思う。ぜひご一読いただき、一杯やりながらそんな話ができれば、担当者としては大変に幸せである。（佐山）



交流事業

神奈川宿から街道松の嫁入り

3月21日、なんと6年ぶりとなる街道松が品川宿にお嫁入りした。長年東海道を繋いでまちづくりを続けて来られた神奈川宿の湯川厚子さんが、造園家の加藤恒雄さんを通じて見目美しい松に出会い、品川宿にお連れくださった。植樹場所は東海道沿い、ビルのオーナー三宅則子様にご理解を頂き、南品川一郵便局前、ポストの脇。とても良く似合う。

まちづくり協議会は東海道筋に「街道松をつなげる」活動を展開して来た。平成5年の浜松宿の松に始まり、今回で13宿、16本目の街道松となった。でも…堀江会長出席の植樹祭は例によって一日中冷たい雨、寒かった。（ハセジュン）



右から、堀江会長、湯川さん、松、寺本局長、平出さん、長谷山

東海道シンポジウム報告会 東京･神奈川ブロック@保土ヶ谷宿

5月20日　東海道保土ヶ谷宿にて「東海道シンポジウム報告会」が開催されました。川崎宿、神奈川宿、保土ヶ谷宿、戸塚宿、藤沢宿、大磯宿、品川宿が参加し、それぞれコロナ禍での活動報告を交わし、元気な様子でブロック会議を開催できたことを喜びあいました。

各宿場、規模を縮小しながらではありますが、宿場まつりやイベントなどの開催が活発に予定されています。大河『鎌倉殿の13人』の反響もあり、まちあるきや企画イベントが増え、探索マップがとても売れているそうです。神奈川7宿は、品川宿から日帰りで十分遊びに行ける宿場ですので、遊びに行ってみてください。　（わだふじこ）



＜東海道シンポジウム＞

情報　どなたでも参加できますので、興味ある方は和田まで!

第34回　2022年11月26日（土）
亀山宿（三重県）

第35回　2023年10月21日（土）
川崎宿（神奈川県）

＼東海道 宿場からの声／

＼東海道 関宿／

この2年半、パンデミックの影響で関宿はまるでゴーストタウンのような、静まり返った宿場町でした。江戸時代から沢山の人々の往来で賑わった、関宿始まって以来のその景観は、寂しくも実は美しい景観だったのは確かです。そんな2年半が今、関宿を大きく変化させています。

国や県の新たな補助金を利用して、空き家を活用した新しいお店ができ始めたのです。現在、新店舗は6店。予定されているのを合わせると、10か所ほどの色々な職種のお店が登場することになります。

それは今まで行政に頼ってばかりいた町づくりを一変させ、民間の力が町を作り出していると感じざるを得ない変化だと期待しています。

（深川屋睦奥大掾十四代目　服部 吉右衛門亜樹）



＼東海道 掛川宿／

2019年に施行された「緑茶乾杯条例」を皮切りに、再び緑茶を中心としたまちづくりが盛り上がっています。掛川城御殿や天守閣、報徳社などの歴史文化財を楽しみにいらっしゃる方々も多いのですが、気がつけば掛川の日常に溶け込んで、茶の文化を楽しんでいます。

近年は高校生を中心とした情報発信への取り組みをしており、内容もさることながら学生の活動自体がコンテンツの一つに育ちそうな気配です。茶園と町を一望できる粟ヶ岳（標高532m）への来訪は、ここ数年で盛況です。麓には掛川宿の隣にあたる日坂宿がその歴史を静かに語っています。古いものと新しい挑戦が入り交じる流れを感じる、そんな楽しみ方が期待されます。

（掛茶料理むとう 武藤太郎）



＼東海道 丸子宿／

コロナが全国的な広がりを見せ始めた2020年、静岡市藤枝市の東海道が「日本初『旅ブーム』を起こした弥次さん喜多さん、駿州の旅」として日本遺産に認定されました。それから2年間、まだ行政主体ではありますが、少しずつ動き出している実感はあります。認定地域を一つの商店と見立て、「駿州堂」という地域ブランドを立ち上げます。宿場に暮らす人と行政が同じテーブルで東海道のことを話す。文化庁からの予算が終わる今年、その関係性がどこまで根を下ろすかがポイントです。また丸子では静岡の伝統工芸を体験できる「駿府の工房匠宿」もリニューアルオープンし、若い世代の来訪が増えています。進化し続ける丸子宿にご期待ください。

（とろろ汁の丁子屋十四代目 丁子屋 平吉）



しながわっこプロジェクト

令和3年度　城南小学校「旧東海道歴史探訪まち歩き」授業

コロナの波間をかいくぐるかのような奇跡的なタイミングで、令和3年度も11月20日に城南小学校6年生の「旧東海道歴史探訪まち歩き」授業を行うことができました。この授業は、旧東海道に面し、史実に残る出来事の舞台に囲まれた地域であることを生かしたもので、平成30年度から毎年、まちづくり協議会と城南小パパの会とで協働して実施してきました。城南小から八ツ山橋までの各チェックポイントで、江戸・幕末の人物になり切ったキャストが、当時の時代背景や出来事、人々の生活などを児童に伝えました。児童にとって、地元の歴史を楽しく知る思い出深い授業になったと思います。

まちづくり協議会のみなさまには毎回、事前準備や当日のガイドなどに多大なるご尽力をいただいております。今後ともみなさまのご協力をお願いいたします。

（城南小パパの会　近藤 修平）



まち並み整備プロジェクト

景観アドバイザー業務などの近況



景観アドバイザー業務は、今年度も月3回の窓口業務と月1回の景観会議を通常開催のほか、緊急事態宣言下ではリモートも活用し行った。長引くコロナ渦で、窓口業務でも周知している修景のための補助金利用が鈍っており有効活用が望まれる。

またその他の活動として、平成26年度に景観重点地区B地区の旧東海道と北馬場参道通りに面する建物の全棟調査を開始した。平成31年度からは街並みの推移を数値化して評価する試みで、新たにその各棟に、品川区の景観基準を基に考案した評価点を付けた街並み調査票（以下調査票）を作成した。今年度は年度内に建物に変化があったものの更新作業と、平成26年度から変化がないものと併せて、現時点における景観重点地区B地区の旧東海道と、北馬場参道通りに面する全棟の調査票を完成させた。さらに昨年度より調査範囲に加えたジュネーヴ平和通りと南馬場通りに面する全棟についても調査票を完成させた。

（景観アドバイザー 安藤智庸）

交番の修景について

保存と経緯について

木造平家建ての旧交番を修景することになった。役所の書類にはRCとして登録されていたが、実際は木造である。しかも、建物内部の骨組みはほぼ虫に食われており、「モルタル壁構造」といった姿であった。これを、しっかりと耐震補強し、元の洗い出しモルタルを復元再生したのだから、まさに職人恐るべし。

この建物の価値については、以前からも、町会をはじめとして商店街、まちづくり協議会が情報発信をしてきており、ようやっと、地元の土地で復元修復ができ、その利活用に道をつけた品川区に感謝。私も修景の設計者の一人として関わらせていただき、本当に良い経験となった。

また、この場所が東海道と水路の交差点にあることも、その活用に向けた価値を増大させることになると思う。何か新しい可能性を示す爺さん（建物）になるのではないかと思う次第である。

（景観アドバイザー 嶋村泰輝）



修景前の旧交番

品川駅南地域のまちづくり

新型コロナ蔓延で集会が困難な状況の中、A・B・C各街区の再開発協議会の進展が遅れており、品川浦周辺まちづくり協議会が中心となり、まちづくりの方向性を示す再開発基本計画案の検討に入り、品川区・東京都との協議・調整を経て、2022年度には再開発準備組合設立に向けて活動を行う。より具体的な計画案づくりに移行したいとの推進協議会事務局の想定ですが、活動が困難な状況で、推進協議会の会員、周辺町会、旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会、エリアマネージント検討会などが各自の意見交換を行う場が設けられるべき時期に来ていると思われる。足並みのそろわない中、計画が進むことだけはあってはならない状況である。

（新實 正義）



もっと地元に目を向けていこう!



2011年の策定から約10年が経過し、これまでのまちづくりの進展状況の確認と、社会経済情勢の変化や技術革新の進展、多様な課題へ対応していくため、2023年度にかけて<品川区まちづくりマスタープラン>の改定委員会がスタートしてる。この委員会は、品川区全域や地区ごとのまちづくりの将来像について、より望ましい姿などを話し合う場と位置付けられており、毎回10席の傍聴枠がある。すでに2回が終わり、あと4回の委員会で何が話し合われていくのか、地元の未来に関心のある方、是非とも一緒に傍聴しましょう!

（わだふじこ）

品川区民の日「大井競馬場メガイルミ」イベントと灯篭プロジェクトのコラボ企画

「大井競馬場イルミネーション2021～2022」は、競馬のない日の大井競馬場を舞台に繰り広げられる壮大なイルミネーションイベントです。

「旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会」の取組として始めた「灯篭プロジェクト」がイルミイベントとコラボしました。11月20日～23日まで本イベント会場にて、城南第二小学校3～4年生と、台場小学校5年生の皆様が作った灯篭を約230個展示しました。4日間の来場者数は約12,000人でした。230個もの灯篭に明かりが点る様は幽玄で、日本文化の情緒を感じます。

（一社）しながわ観光協会、旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会の皆様が協力して撤収作業をしました。

■参加者感想

灯篭がガラスに映ってより綺麗に原色の絵が映えます。楽しそうに眺める子供たちの顔が生き生きしていて、また来年もやろうと思いました。展示の仕方ですが、今回改善点が見つかったので来年に活かそうと思います。。コロナ禍において、兎角暗くなりがちな昨今ですが、来場された人々はみんな笑顔で、明るい気持ちになりました。

（管理本部総務部 CSR推進課
小野 文義　シニアマネージャー）



水辺プロジェクト

祝!東品川海上公園船着き場完成



4月9日（土）東品川海上公園船着き場完成披露式典が執り行われました。動力船とカヌーなどの非動力船が共有できる最新の設計で、水辺の活動の発展に繋がる素晴らしい桟橋です。30年以上前から声を上げ続けてくれた先輩たちに心から感謝するとともに、まちづくりとは次の世代に何を残せるかだということを改めて感じました。
（なぎさの会 大竹 幸義､小日向 亮輔）

～憧れていた光景～しながわ運河まつり



運河まつりは、私がずっと見たかった光景でした。幼少期、人が大勢参加するイベントや食事会によく家族で行っていたこともあり、たくさんの人が集まって、楽しそうにしている光景を見ることが私は大好きでした。しかし、学年が上がるにつれて、その機会は自然となくなりました。さらに、この約2年間、コロナ禍によって人と人とが触れ合えなくなり、大好きな光景は長いこと見ることができませんでした。今回、運河まつりを通して、当日に大勢の参加者が来場して楽しんでいたり、会場中の人が花火を見上げていたりするところを見せてもらえたことがとても幸せでした。
特に一番印象に残っているのは、2日目の最後の打ち上げの光景です。今回、なぎさの会のお手伝いに参加して、準備日から必要なものをトラックなどを使って運び、当日2日間も朝5時から集まり、私が見えた範囲だけでも、かなり大変なことをみなさんが力を合わせてされていることが分かりました。そして1日が終わるとみんなで集まり、おしゃべりをして飲んで食べている様子を見ると、運営に携わる人たちが待ち望んでいたのは、みんなで触れ合えるこの時間ではないかと感じました。
（清泉女子大学　片岡 久美子）

文化スポーツ夢プロジェクト

しながわ運河まつり2022 防災ホッケー・ホッケー体験会

4月9日、10日の2日間、東品川海上公園と天王洲公園で、しながわ運河まつりが開催されました。私たちフリークス東京は品川区を拠点とするホッケートップリーグのチームです。同じく区内を活動拠点とするパキラホッケースクールと東京ヴェルディ女子ホッケーチームと共に、グラウンド企画でのホッケー体験を、担当させていただきました。ビギナー向け小学生の部では、定員を上回るほどの盛況で、広いグラウンド狭しと好天の中、みんなで元気にボールを追いかけました。また新しい取組みとして、防災ホッケーを実施。ホッケーを楽しみながら、防災の知識を頭と身体で身につけました。今後もホッケーをまちづくりに活かしてもらえるよう、活動を続けていきますのでよろしくお願いします。
（フリークス東京　多氣 洋平）



品川区エアロビック連盟･OKJエアロビックファミリー活動報告



しながわ運河祭りにおいて、品川区にある天王洲サッカー場で「みる・する・支える全てOK」の青空フィットネスを担当させていただきました。～親子体操・パパママヨガストレッチ・ノリノリダンス・平均台・ミニトランポリン・跳び箱・鉄棒・エアロビック!～赤ちゃんから中学生・パパママ・おじいちゃんおばあちゃんまで、なんとびっくりの580名の方が集って、一緒に多世代型エアロビックフィットネスを楽しんでいただきました。しながわ運河まつり実行委員会の皆様、参加者の皆様、スタッフの皆様、深く感謝申し上げます。大変ご好評をいただき、秋には再びこちらのグラウンドでの開催担当させていただく予定です!皆様､青空フィットネス次回もよろしくお願い申し上げます!
（上田 泰子）



＼まちをあげて応援しよう!／



しながわ運河まつりでは、プロダンスチーム「SEGA SAMMY LUX」、
プロフットサルチーム「しながわシティフットサルクラブ」、ブラインドサッカー®「パペレシアル品川」
FC東京クラブコミュニケーターの石川直宏さんなど、多くの選手・パフォーマーにもご協力いただきました!
日本一を目指す、品川のトップスポーツチーム、アスリート、パフォーマーを応援しましょう!（竹中 茂雄）

〈ホッケー試合情報〉

東京2020五輪が開催された、大井ホッケー競技場メインピッチ（八潮4-1-19）にて、品川区をホームタウンとする「フリークス東京」（男子）、「東京ヴェルディ女子ホッケーチーム」のホームゲームがあります。





フリークス東京（男子）
7月9日（土）9:30 試合開始 vs 小矢部 Red OX
7月10日（日）16:15 試合開始 vs 福井工業大学
7月23日（土）10:00 試合開始 vs 表示灯フラーテル
7月24日（日）14:30 試合開始 vs 東京農業大学
入場料1,000円（高校生以下無料）。区にゆかりのある団体や個人の方にも、ホームゲームを盛り上げるためにご出演をいただく予定です。
地域の皆さんの応援を力に、勝利を目指します。多くの方のご来場をお待ちしています。

東京ヴェルディ女子ホッケーチーム
1月20日（金）15:30 試合開始 vs グラクソ・スミスクライン
1月21日（土）13:30 試合開始　vs コカ・コーラレッドスパークス

研究･事業開発プロジェクト

2021品川宿観光PR

昨年度に引き続き、品川区文化観光課のご支援をいただき、観光PR事業に取り組むことができた。メニューは以下の通り。



1. 品川宿写真展：セピア色の品川より「品川神社と北馬場界隈」1月5日～5月15日交流館1階。
品川神社、北二町会のご協力をいただき実施。1月～3月の間に3,000人超の方がご覧になる。
2. まち歩き資料の作成：コロナ禍で、街道文庫の田中さんが案内するまち歩きが実施できなかったため、次年度以降にも使える6コース分の資料とシナリオの作成に取り組んだ。
3. 体験型プログラムを提供するまち歩き:宿場ジャパンの協力を得て､「瀧爪で茶席を体験する」ツアーと､「一心寺でほうろく灸を体験する」ツアーを実施し、今後の品川宿における体験ツアーの可能性について検証した。
4. 品川宿PRサイトの運用・拡充：ホームページのアップデートと「まちの仲間」ページの拡充、さらに新なコンテンツとして「品川宿人物図会」を追加した。まちづくり活動にも積極的に参加しながら、地域でいきいきと活動する魅力的な人物6名の動画。今年度は、木村眞基さん、玉井香織さん、大竹幸義さん、小日向亮輔さん、和田紀子さん、佐藤亮太さんの6名。映像はドキュメントの内山直樹さんと松井至さん。



5. 品川宿PRの動画の制作：「品川宿の水辺をめぐる」自転車クルージングツアー1本（映像は宿場ジャパン）。田中さんのバーチャルまち歩きは、「品川宿は鉄道のまち」と「品川寺のお地蔵さま」の2本を制作。映像はドキュメントの米本直樹さん。
6. 観光情報案内サイン計画の策定：報告書･新たなインフォメーションネットワークの「運営骨子及びサイン実施計画書」の策定。
（佐山）

しながわホッケーファンゾーン2022

昨年はオリンピック東京2020大会にて、ホッケー競技が品川区内で行われることを受け、ホッケー競技の応援機運醸成やまちの活性化を目的に企画されたものの、残念ながら競技はコロナの影響で無観客となりました。それでも今の状況下でできる応援をということで、区民参加型ステージのオンライン配信をはじめ、応援フラッグ・八潮キャンドルナイト・品川ゆかりのアーティストたちによるステックアート、全国ホッケータウンオンラインサミット・ホッケー川柳募集等、様々なことを行ってきました。これを品川区や区議会でもご評価をいただけたことで、本年もしながわホッケーファンゾーン2022として、リアル開催を目指し、品川区・区議会・区内各種団体・企業で組織する実行委員会が始動しました。本年3月には品川区と（公社）日本ホッケー協会・（一社）東京都ホッケー協会がオフィシャル社会共創パートナーシップを締結。「東京2020大会のレガシー活用」｢スポーツを活用したまちづくり推進」｢ホッケーを活用した地域活性化」｢ホッケー競技の普及と応援機運醸成」｢ホッケー国内・国際大会の開催とおもてなし」等を目標に、今年は様々企画を開催してまいりますのでお楽しみに!
（しながわホッケーファンゾーン事務局長 大越 章光）



選手村退村直後の足で、試合の報告と応援のお礼のため品川にいらした選手たち

「品川宿史談会」講演活動再開

「品川宿史談会」の講演は令和元年1月19日の第12回公演で、品川区による区民活動助成事業としての活動は終了いたしました。令和2年新たな自主運営事業を準備中の1月末、コロナ感染蔓延の為、講師との打ち合わせ、会場（第一地域センター・集会室）の閉鎖で活動が出来ず。令和3年春先に活動を再開、年末12月12日に第13回品川宿史談会を開催。会場の利用が定員の50%制限という縛りの中での自主運営は、初めから赤字覚悟のスタートでしたが、講師の元品川歴史館副館長、現歴史館専門委員の柘植信行先生による「中世港町から東海道品川宿へ―品川町はどのように変遷したか」という、今までの品川歴史館緒企画展では触れてこられなかったテーマを一歩踏み込んだ講演で、ほぼ満席となりました。続いて第14回「品川宿史談会」を北品川宿の老舗「尾張屋呉服店。大橋家の先祖史をたどる物語」を



大橋登社長が講演。お父様も応援に来られ貴重なお話で、江戸時代（文化・文政の頃）に品川に来られ、宮大工棟梁として活躍、この本家は幕末に材木業を始め、分家が明治23年、呉服店を開いた事等、本家の大橋清一郎氏が品川町・町長から太平洋戦争中代議士を務めるとともに、品川町に多大の功績を遺された事。他方、アララギ派の俳句会で活躍されたことなどをお聴きいたしました。今年度末頃には講演録としてお披露目いたす予定です。
（新實 正義）

南品川櫻河岸～まちなか観光案内所（旧交番）オープン

「地域の想いが詰まった建物」
そんな言葉と共に2年前に前任から旧交番の事業を引継ぎました。その当時は、その言葉の意味も分からず、所有者（東京都）からの購入手続きに奔走していました。都からの購入後は、竣工当時の意匠を崩さないよう、改修工事を行いました。改修工事後は建物運営です。地元の皆様とそれらの話し合いを重ねたことで旧交番に詳しくなっていきました。地元町会の方が交通安全運動などの拠点に活用されていたこと、そして、まちづくり協議会が都からの購入について声を上げていただいたこと。色々な方が旧交番を大切に想い動いてきたからこそ、現在があると気づきました。そんな「地域の想いが詰まった建物」を地域と共に大切に運営していきたいです。
（品川区文化観光課 藤田）

